

令和6年度 大阪国際中学校高等学校 学校評価 実施報告

大阪国際中学校高等学校

校長 清水 隆

1. めざす学校像

「未来社会を担う、『志』と『人間力』をもった人材を教育・輩出する」との揺るぎない評価を確立した学校

- ・校訓「人間をみがく」に沿い、「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」を実践
- ・すべての生徒が在学中に自ら『志』を立て、社会での存在価値を見出す。生徒たちのその『志』の実現を応援することを最重要事項として推進
- ・生徒は学ぶ意味を理解し、お互いの価値観を認め合い、学び合う。そうした姿勢が学校文化として定着
- ・国際バカロレアの理念が学校全体に浸透し、「国際学園」の名にふさわしい学びの環境が確立
- ・学園創立100周年を目前にして、「基本戦略プラン」の展開は学校を特徴化するものとして機能、完成形となり、新たな第二ステージを計画・展望
- ・教職員も常に向上心を持ち、さらなる成長への努力を怠らない。闊達で活気あふれる組織風土を形成
- ・安定的に定員を満たす入学者を獲得し、財務上の経営安定と積極的な事業展開を行う基盤を確保

2. 中期的目標

1. 「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」の実践

- ・「基本戦略プラン」に沿った学校運営の実施。項目ごとの推進時間軸と具体策を策定し、年度別に計画に沿った運営を行う。
- ・4つの特色的な学び、「人間をみがく」「国際感覚をみがく」「創造力・表現力をみがく」「個を支える」の実践。これらを通じ、社会に貢献できる人材に共通した資質(社会人基礎力)を修得させる。
- ・各コースのカリキュラム編成、授業展開においては、新学習指導要領に準拠。知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するとともに、社会の変化に対応できる資質と能力を高める。
- ・国際バカロレアの理念を学校全体に及ぼし、国際バカロレア機構が定める「IB Learner Profile」を本校の「目指す生徒像」に設定。生徒の『人間形成』教育の柱とする。
- ・時代の要請に応えるICT教育を展開するため、Chromebookを一人一台配備。また、施設設備面の充実のみならず、教員のスキルや指導力向上など、あらゆる方策を講じていく。
- ・校舎棟内に配置された約19,000冊の本を活かし、生徒たちの進路や価値観、人生観に影響を及ぼす多くの気づきを与えていきたい。
- ・生徒の「学び」と「人間形成」のための土台づくりとして、新入生には入学直後に本校独自のスタートプログラムを展開。学ぶ意味と姿勢を理解し、学校生活をスタートするにあたってのモチベーションを高める。
- ・入学時より、自らの「志」を立てることの大切さやそれをサポートする講演などの取り組みを展開。2年次に「志論文」を書き、自らの将来を設計し、発表し合う「立志式」を実施する。
- ・女子バレーボール部・男子硬式テニス部・女子ラクロス部・吹奏楽部をシンボリッククラブとして位置付け、強化を図っていく。

2. 進路指導

- ・生徒一人ひとりがその多彩な個性・志を実現すべく、希望する進学先・進路に進んでいるという姿を明示する。その結果が、世の中から評価される形の進路先・内容・実績となれば、出口戦略(進路)と入口戦略(募集)がマリーする好循環が生まれる。
- ・生徒が学ぶ意味を理解し、自ら立てた志の実現のため主体的に勉強に取り組めば、より確かな学力が身につく、進路先も多様となる。それがまた本校の魅力の一つとなる。
- ・国際バカロレアコースでは、所期の想定に沿い、海外大学も含めた幅広い進路先を実現していく。
- ・総合探究コース・幼児保育進学コースを中心に、大阪国際大学・短大との連携・協働を深め、学びの特色としての位置付けを高めるとともに、安定的な内部進学者数を確保する。

3. 生徒指導

- ・挨拶、時間厳守、校内美化を徹底するとともに、学校活動全般を通して円滑な人間関係の構築を学ばせる。
- ・高校1年生は、IBコースを除く全コースの生徒が、小笠原流礼法の授業を正課で受講。この授業を通じ、「他者を思いやる心」を身に付け、各々の人間力向上にもつなげていく。
- ・不登校など、配慮を必要とする生徒への対応のため、全学的な生徒相談体制を構築。各学年と保健室、生徒相談担当職員にスクールカウンセラーが適宜連携を取りながら、適時適切に対応していく。
- ・シンボリッククラブの設定など、クラブ活動もより活性化させ、生徒のクラブ活動加入率も向上させていきたい。

4. グローバル人材の育成

- ・国際バカロレアの理念が学校全体に浸透し、「国際学園」の名にふさわしい学びの環境が確立されている姿を目指す。
- ・グローバルコモンズを活用したネイティブ教員との交流や、豊富な洋書の蔵書を使った取り組みなどを活性化させる。
- ・イメージ教育や英会話強化プログラムの実施、グローバル体験、英語スピーチコンテスト等により、GLOBAL MINDを醸成するとともに、英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・海外修学旅行の実施や海外留学・研修プログラムの充実化により、異文化や多様性に触れる機会を作る。
- ・提携校からの交換留学生をはじめ、AFS留学生など、さまざまな機会を捉え、留学生の受け入れを行っていく。また、オンラインを通じた交流なども取り入れていく。

5. 人材開発

- ・教員の指導力強化と将来に向けた中核人材の育成に向け、体系的な研修制度・人材開発システムの構築を図る。
- ・新任教員を対象に、年度初めの導入研修を実施するとともに、ピアサポートプログラムにて先輩教員が新任教員の仕事面・メンタル面のサポートを行い、成長を支援する。
- ・「教員力」の強化に向け、新たに人材開発システムを構築し、各種研修、体験を提供する準備を行う。
- ・人材開発システムにて、中核・役職候補人材の強化を図り、次世代の大阪国際を担う人材を計画的に育成する仕組みをスタートさせる。
- ・「教育理念」や「目指す生徒像」に沿った業務活動・生徒育成を教員各個人の業務目標に織り込むことを必須化。本校が目指す姿を、教員が行動ベースで具現化していく。

6. 組織改革

- ・教務システムBLENDおよびグループウェアGaroonなどのシステムやICTを活用し、校務全般の効率化を図ることで、教職員が「生徒に振り向ける時間」を極大化し、ひいては教職員の働きがい向上につなげる。
- ・教職員一人ひとりが教育理念を理解し、能動的に、かつ皆で協働するマインドを醸成すべく、インナーブランディング活動を計画的に推進していく。
- ・教職員も常に向上心を持ち、さらなる成長への努力を怠らない。闊達で活気あふれる組織風土を形成する。

			<p>・学校の特色や教育方針についても生徒・保護者ともに理解されてきている。ただ、一方では学校の授業はわかりやすく、質問対応などにも丁寧に対応していることは評価されるも、実際の学力向上感には保護者にも実感されておらず、具体的な数値で示す機会が必要なかもしれない。</p> <p>・ICTの活用に関しては、全学年が一人一台利用できる環境が整い、高校の評価が大きく伸びた。</p> <p>・学校改革に対する評価が低くなっているが、真摯に受け止め意識して今後の学校運営に生かす必要がある。</p>
(2) 「進路指導」	(2) ア. 生徒1人1人に応じた進路指導を実践し、多様な進路を保障する イ. 「志」を立てる取り組みから定めた生徒の希望進路を実現させる	(2) ア. 大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある イ. 国公立大学50名、 関関同立200名の合格を目指す	(2) ア. 肯定的評価 ・高校 86.1%(昨年度83.0%) 【◎】 ・高校保護者 79.8%(昨年度77.2%) 【○】 ・教職員 85.2%(昨年度81.7%) 【◎】 イ. 大学合格実績(R7.3.31現在) ・国公立大学 67名(71名) 東京大 1名(昨年度0名) 大阪大 6名(昨年度5名) 神戸大 7名(昨年度4名) 国際教養大 2名(昨年度 0名) 大阪公立大 13名(昨年度20名) ・関関同立 261名(昨年度260名) 〈卒業生数 382名(昨年度 260名)〉 【◎】 ※大阪国際中学校高等学校に入学した第1期生で幅広い学力層の生徒を受け入れているため、昨年度とは単純に比較できないが、まだすべての結果が出ていない段階ではあるものの、国公立大学の推薦入試の合格者が増加傾向にあること、生徒の希望する多様な進路がほぼ実現されていることは評価できる。特に、東京大、大阪大、神戸大、国際教養大、大阪公立大など難関国公立大への合格が目立った。一方で、大阪国際大(短期大学部を含む)への内部進学者は14名にとどまった。
(3) 「生徒指導」	(3) ア. 生徒指導や校内美化など、新しい見地をもって指導を行い、調和のとれた学校生活を目指す イ. 生徒理解の促進と安心な学校造りのための体制の構築をめざす ①精神的な疾患等による長期欠席者または不登校者に対するケアを実施し、転・退学の防止に努める ②SNS利用に関するトラブルなど、いじめにつながる問題事象の発生防止に努める ウ. 文武両道により知徳体のバランスの取れた人材育成を目指す	(3) ア. ①学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる ②学校は、生徒の間違った行動を改めるように指導している ③学校の生徒指導方針に基づいた指導が行われている[教職員] イ. ①転・退学者数が在籍生徒の1.0%以内 ②先生は、自分たちのことを理解し、困ったとき、相談をしたり、手助けしたりしてくれる。 ③保健室での処置や相談の対応は親切である 保健室を中心に、体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行えている[教職員] ウ. ①学校の部活動は活発である ②部活動の加入率80%以上	(3) ア. ①肯定的評価 ・中学 85.4%(昨年度78.9%) 【◎】 ・高校 87.8%(昨年度85.1%) 【◎】 ・中学保護者 85.9%(昨年度85.5%) 【◎】 ・高校保護者 83.7%(昨年度84.7%) 【◎】 ②肯定的評価 ・中学 92.3%(昨年度90.5%) 【◎】 ・高校 92.4%(昨年度89.1%) 【◎】 ・中学保護者 87.6%(昨年度89.2%) 【◎】 ・高校保護者 86.9%(昨年度85.7%) 【◎】 ③肯定的評価 ・教職員 64.2%(昨年度72.0%) 【○】 ※ 落ち着いた学校として保護者からも認識されており、教員の生徒に対する指導方針も承認されていると感じられる。一方で、教員からは統一した指導ができていないという意識があるのは課題である。 イ. ①R6年度 転・退学者(R7. 3. 1現在) ・中学校 4名(1.4%) 高校 15名(1.4%) 〈昨年度同時期 中学校 4名(1.5%) 高校 12名(1.2%)〉 【△】 ②肯定的評価 ・中学 91.6%(昨年度85.3%) 【◎】 ・高校 87.0%(昨年度82.6%) 【◎】 ・中学保護者 82.2%(昨年度80.6%) 【◎】 ・高校保護者 84.7%(昨年度82.5%) 【◎】 ③肯定的評価 ・中学 95.0%(昨年度87.9%) 【◎】 ・高校 92.1%(昨年度85.9%) 【◎】 ・教職員 100%(昨年度100.0%) 【◎】 ウ. ①肯定的な評価 ・中学 93.5%(昨年度90.9%) 【◎】 ・高校 89.5%(昨年度84.9%) 【◎】 ・中学保護者 78.8%(昨年度81.5%) 【○】 ・高校保護者 85.5%(昨年度79.8%) 【◎】 ・教職員 88.9%(昨年度75.6%) 【◎】 ②部活動(高校)の加入率 88.7%(昨年度83.5%) 【◎】 部活動(中学)の加入率 83.8%(昨年度84.5%) 【◎】 ※ 学校生活全般では、生徒も保護者も満足度が高い。部活動の加入率も年々高くなっており、学習活動だけでなく、部活動への参加も期待して学校選びが行われているのがわかる。いじめや生徒指導上の問題もほぼなく、生徒や保護者の満足度も高いが、通学時の自転車マナー、SNSの使用上のマナーなど今後も継続して指導が必要である。

<p>(4)</p> <p>「グローバル人材の育成」</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 国際交流や異文化交流の取り組みの実施</p> <p>イ. イングリッシュセミナーやグローバルヴィレッジ、英語スピーチコンテストなど英語によるコミュニケーション能力の育成の充実</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 学校は国際交流や異文化交流の活動に積極的に取り組んでいる</p> <p>イ. GTEC690点以上の取得80%以上</p>	<p>(4)</p> <p>ア. 肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中 学 94.6%(昨年度93.5%) 【◎】 ・高 校 94.9%(昨年度91.8%) 【◎】 ・中学保護者 96.3%(昨年度94.9%) 【◎】 ・高校保護者 93.3%(昨年度91.8%) 【◎】 ・教職員 97.5%(昨年度84.1%) 【◎】 <p>【海外修学旅行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 ドイツorアメリカorオーストラリア ・中学 シンガポール・マレーシア <p>【海外留学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 ニューージーランドターム留学・オーストラリア交換留学 <p>【海外研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校 UCLA研修・ケンブリッジ研修・ベトナム医療ボランティア研修 カンボジアボランティア研修 ・中学 オーストラリア研修 <p>【留学受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリア提携校(IGS 高校3名、中学14名)、 AFS(2名 ミャンマー・カンボジア)、中国30名、台湾51名 <p>イ. GTECの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <高3> 受験者平均 942.9点(昨年度893.2点) 【◎】 A2(680点)以上 254名(100.0%) (昨年度 98.8%) B1(930点)以上 230名(90.6%) (昨年度 35.4%) <高2> 受験者平均916.2点(昨年度893.5点) A2(680点)以上 181名(99.5%) (昨年98.3%) B1(930点)以上 143名(78.6%) (昨年度34.9%) <高1> 受験者平均 881.8点(昨年度795.6点) A2(680点以上) 155名(99.4%) (昨年88.8%) B1(930点)以上 71名(43.0%) (昨年度 9.2%) <p>※オーストラリアの提携校を中心に、研修や受入が活発に行われている。中国や台湾といったアジアからの訪問や、従来のベトナムボランティア研修に加え、カンボジアボランティア研修を新規で実施するなど充実している。</p> <p>・GTECのスコアの伸びが著しい。全国平均に比べてもかなり伸び率が高いのは本校の英語教育の大きな成果であると考える。</p>
<p>(5)</p> <p>人材開発</p>	<p>(5)</p> <p>ア. 新規採用教員及び若手教員の育成 導入研修の実施やメンター制度の導入、授業研究などを通し、指導助言、育成を図る</p> <p>イ. 中堅・ベテラン教員の教員力の向上とリーダーシップの育成 各階層に応じた教員としての能力向上のため、研修制度の充実と自己啓発への意欲を高める</p>	<p>(5)</p> <p>ア. ①初任者等経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある[教職員]</p> <p>②教員間で授業内容を評価・意見交換などを行う機会がある[教職員]</p> <p>イ. ①効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している[教職員]</p> <p>②教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている[教職員]</p> <p>③研修、研究に参加した成果を、他教員に伝えて情報を共有する体制がある[教職員]</p>	<p>(5)</p> <p>ア. ①肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 48.1%(昨年度51.2%) 【△】 <p>②肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 80.2% (昨年度76.8%) 【○】 <p>※初任者に対しては、校長による授業見学及び面談を年に数回実施したり、指導教諭による授業見学やサポートなどは随時実施しているがまだ不十分だと言える。若手教員同士のピアサポート体制の取り組みも定着してきており、少しずつであるが、改善傾向が見られている。</p> <p>イ. ①肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 67.9% (昨年度58.5%) 【△】 <p>②肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 34.6%(昨年度37.8%) 【×】 <p>③肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員 63.6%(昨年度68.3%) 【○】 <p>※教職員の校内研修として、6月と10月に教員相互授業見学期間を2週間設定し、お互いにフィードバックできるようにした。</p> <p>特に10月は対象クラス以外、午後の授業をカットして研究授業を行い、各教科で研究協議を行うとともに、全体研修として昨年度に引き続き千々布敏弥先生に指導講評をお願いした。</p> <p>・8月には観点別評価について石井英真教授による講演会を実施した。</p>

<p>(6)</p> <p>組織改革</p>	<p>(6)</p> <p>ア. 学校の教育理念の理解と教員間の連携</p> <p>イ. 各種会議の時間短縮や業務の効率化 運営委員会、職員会議などで校内諸会議のペーパーレス化を進め、1時間以内を目標に効率的に会議を実施 生徒指導の時間を確保するとともに「働き方改革」を幅広く実施していく</p> <p>ウ. 保護者への連絡、PTA活動の活性化など、学校と家庭の連携強化を図る</p>	<p>(6)</p> <p>ア. ①教職員は「建学の精神」や「教育方針」を理解し、指導に取り組んでいる [教職員]</p> <p>②教員間・教科間の相互理解がなされ信頼関係に基づいて教育活動が行われている[教職員]</p> <p>イ. 教職員会議をはじめ、各種会議が有効かつ効率よく機能している[教職員]</p> <p>ウ. ①「先生は保護者の相談に適切に応じ、意思疎通をきめ細かく行っている」 [保護者]</p> <p>・家庭との連携ができています[教職員]</p> <p>②「PTA活動は活発である」[保護者]</p> <p>③ 本校のWEBページの内容は充実している</p> <p>・学校はホームページを利用して積極的に情報を公開している[教職員]</p> <p>・募集定員の確保</p>	<p>(6)</p> <p>ア. ① 肯定的評価 ・教職員 87.7%(昨年度86.6%) 【◎】</p> <p>② 肯定的評価 ・教職員 70.4%(昨年度69.5%) 【○】</p> <p>イ. 肯定的評価 ・教職員 49.4%(昨年度61.0%) 【△】</p> <p>※「働き方改革」の実施からも各会議などの効率化は必至で「Garoon」や「BLEND」などを使い、効率化を図っている。</p> <p>ウ. ① 肯定的評価 ・中学保護者 80.5%(昨年度77.2%) 【◎】 ・高校保護者 79.6%(昨年度76.1%) 【○】 ・教職員 90.1%(昨年度90.2%) 【◎】</p> <p>② 肯定的評価 ・中学保護者 87.6%(昨年度91.6%) 【◎】 ・高校保護者 89.2%(昨年度87.8%) 【◎】</p> <p>③ 肯定的評価 ・中 学 85.8%(昨年度90.1%) 【◎】 ・高 校 85.2%(昨年度78.8%) 【◎】 ・中学保護者 86.7%(昨年度90.3%) 【◎】 ・高校保護者 85.0%(昨年度83.5%) 【◎】 ・教職員 95.1%(昨年度97.6%) 【◎】</p> <p>※ PTA活動も活発で、毎月のように行事に取り組んでいる。学校での行事にも多くの保護者の参加が見られるようになった。「BLEND」を通じて保護者への連絡も積極的に行われている。</p> <p>・中学校入学者数 101名(昨年度96名) 【◎】 ・高校入学者数 448名(昨年度333名) 【◎】</p>
------------------------	--	---	--

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和7年1月～2月実施〕

【結果】

- 資料①—1 令和6年度 学校評価（中学生徒）アンケート集計表
- 資料①—2 令和6年度 学校評価（高校生徒）アンケート集計表
- 資料②—1 令和6年度 学校評価（中学保護者）アンケート集計表
- 資料②—2 令和6年度 学校評価（高校保護者）アンケート集計表
- 資料③ 令和6年度 学校評価（教職員）アンケート集計表

【分析】

1. 実施状況

対 象		対象者数	回収数	回収率	調査期間	備 考
生徒	中学全学年	284	261	92%	令和7年2月12日～2月17日	資料①—1
生徒	高校全学年	1021	935	92%	令和7年2月12日～2月17日	資料①—2
保護者	中学全学年	284	241	85%	令和7年2月5日～2月25日	資料②—1
保護者	高校全学年	1021	731	72%	令和7年2月5日～2月25日	資料②—2
教員	常勤	90	81	90%	令和7年2月12日～2月27日	資料③

2. 対象別アンケート結果

○ 生徒（中学校）＜資料①—1＞

新しい学校になり3年目ということもあり学校の教育方針が徐々に生徒たちに浸透していることがうかがえる。コロナの影響がほぼなくなり、様々な行事が平常通り実施できるようになったことが生徒の満足度を高めている。

表1—1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R6年度	10	17	1	1	0	0	0	0	29
R5年度	9	15	3	1	1	0	0	0	29
R4年度	10	18	4	0	0	0	0	0	32

ア. 評価A+Bが90%以上の「評価の高い」項目

- ・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。 95.8%
- ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。 95.8%
- ・保健室での処置や相談の対応は、親切である。 95.0%
- ・私は、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。 95.0%
- ・学校は、国際交流や異文化交流等の活動に積極的に取り組んでいる。 94.6%
- ・学校の部活動は活発である。 93.5%
- ・先生は、生徒の間違った行動を改めるように指導している。 92.3%
- ・先生は、自分たちのことを熱心に指導している。 91.6%
- ・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている。 90.8%
- ・大阪国際中学校に入学してよかったと思っている。 90.4%

イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目

- ・大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある。 62.5%

ウ. 昨年度から5ポイント以上評価が高くなった項目

- ・大学の進路指導に関して適切なアドバイスがある。 +7.3 (55.2%→62.5%)
- ・保健室での処置や相談の対応は、親切である。 +7.1 (87.9%→95.0%)
- ・先生は、いじめや暴力のないクラスづくりに取り組んでいる。 +6.5 (78.9%→85.4%)

エ. 昨年度から5ポイント以上評価が低くなった項目

※なし

○ 生徒（高等学校）＜資料①—2＞

中学校同様に、学校行事が平常通り実施できるようになったことが評価に反映されている。特に学校行事や生徒指導面での評価が高い。昨年度から比較して評価がかなり高くなったのは、学校の教育方針に関する項目やICTの活用など施設設備に関する項目、そして保健室や事務室などでの教職員の丁寧な対応がある。一方で、5ポイント以上下がった項目に「資格・検定の取得」があるが、英語検定を校内受験から外部会場受験に変更したことが曳航しているものと考えられる。

表1—2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100～90	～80	～70	～60	～50	～40	～30	～0	項目総数
R6年度	5	17	5	1	1	0	0	0	29
R5年度	2	13	8	5	1	0	1	0	29
R4年度	5	12	6	7	2	0	0	0	32

- ア. 評価A+Bが90%以上の「評価の高い」項目
- ・学校は、国際交流や異文化交流等の活動に積極的に取り組んでいる。 94.9%
 - ・先生は、生徒の間違った行動を改めるように指導している。 92.4%
 - ・保健室での処置や相談の対応は、親切である。 92.1%
 - ・学校は、災害が起こった場合の訓練を行っている。 91.7%
 - ・私は、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。 90.6%
- イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目
- ・学校がよりよく変わっているように感じる。 56.6%
 - ・学校の生徒会活動は活発である。 66.8%
- ウ. 昨年度から5ポイント以上評価が高くなった項目
- ・学校ではICT機器を用いた授業が積極的に行われ、内容に満足している。 +14.2 (67.3%→74.2%)
 - ・学校の「建学の精神」や「教育方針」を理解している。 +12.1 (61.8%→73.9%)
 - ・学校では、「特色のある教育活動」が行われている。 +11.5 (71.8%→83.3%)
 - ・学校の「目指す生徒像」を理解している。 +10.4 (72.5%→82.9%)
 - ・本校の生徒であることに誇りを持っている。 +9.3 (64.9%→74.2%)
 - ・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。 +8.3 (77.0%→85.3%)
 - ・学校は、学習だけでなく、将来の自分の生き方を考えさせ、豊かな心を育てようとしている。 +7.6 (74.3%→81.9%)
 - ・本校のWebページの内容は充実している。 +6.4 (78.8%→85.2%)
 - ・保健室での処置や相談の対応は、親切である。 +6.2 (85.9%→92.1%)
 - ・学校の授業で、着実に学力が向上している。 +5.4 (68.8%→74.2%)
 - ・事務室での手続きや相談の対応は、丁寧である。 +5.4 (81.6%→87.0%)
 - ・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。 +5.1 (75.4%→80.5%)
- エ. 昨年度から5ポイント以上評価が低くなった項目
- ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。 -6.3 (91.3%→85.0%)

○ 保護者（中学校）＜資料②—1＞

全体としては昨年度と大きく変化は見られず、行事や学校に対する満足度は高い。ただ、学習面に関する項目が低いのが大きな課題である。また、校長が代わったことが影響したのか、校長の学校改革に関する評価が大きく下がった。開校3年目で学校の教育方針が浸透してきた一方で、さらなる改革を期待する声だと認識し、次年度以降の学校運営に活かしたい。

表 2-1 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~0	項目総数
R6年度	8	16	3	4	1	0	0	0	32
R5年度	8	16	5	1	2	0	1	0	32
R4年度	5	22	5	2	0	1	0	0	35

- ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目
- ・学校は、国際交流や異文化交流等の活動に積極的に取り組んでいる。 96.3%
 - ・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。 95.9%
 - ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。 95.4%
 - ・学校では、「特色のある教育活動」が行われている。 91.7%
 - ・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。 91.7%
 - ・学校ではICT機器を用いた授業に積極的に取り組んでいる 90.0%
 - ・お子さまは、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。 90.0%
 - ・お子さまを、本校に入学させてよかったと思う。 90.0%
- イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目
- ・お子さまの学力は向上している。 59.3%
 - ・学校から進路指導に関して適切なアドバイスがある。 60.2%
 - ・学校のPTA活動には参加しやすい。 61.4%
 - ・お子さまは「授業が分かりやすい」と言っている。 66.8%
 - ・校長は、積極的に学校改革に取り組んでいる。 69.3%
- ウ. 昨年度から5ポイント以上評価が高くなった項目
- ・学校は、保護者に「建学の精神」や「教育方針」をわかりやすく伝えている。 +5.1 (78.7%→83.8%)
 - ・学校から進路指導に関して適切なアドバイスがある。 +5.0 (55.2%→60.2%)
- エ. 昨年度から5ポイント以上評価が低くなった項目
- ・校長は、積極的に学校改革に取り組んでいる。 -16.5 (85.8%→69.3%)
 - ・お子さまは「授業が分かりやすい」と言っている。 -7.6 (74.4%→66.8%)
 - ・学校のPTA活動には参加しやすい。 -6.4 (67.8%→61.4%)

○ 保護者（高等学校） <資料②-2>

全体的に評価が上がっているが、特に学校の教育方針に対する理解や学校行事に対する評価が年々高くなっている。教職員のきめ細かい対応も評価されている。一方で、学力に関しては中学校同様に保護者の評価が低いのが大きな課題である。

表 2-2 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~0	項目総数
R6年度	5	15	10	2	0	0	0	0	32
R5年度	2	16	10	4	0	0	0	0	32
R4年度	1	16	13	4	0	0	1	0	35

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・学校は、国際交流や異文化交流等の活動に積極的に取り組んでいる。 93.3%
- ・お子さまは、文化祭・体育祭、宿泊行事などの学校行事に、積極的に参加している。 92.5%
- ・学校の文化行事（ココロの学校等）は、充実している。 92.5%
- ・学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる。 90.7%
- ・事務職員の保護者への対応は丁寧である。 90.3%

イ. 評価A+Bが70%未満の「評価の低い」項目

- ・お子さまの学力は向上している。 64.3%
- ・学校のPTA活動には参加しやすい。 61.8%

ウ. 昨年度から5ポイント以上評価が高くなった項目

- ・学校は、ICT機器を利用した授業に積極的に取り組んでいる。 +8.1 (80.7%→88.8%)
- ・学校は、保護者に「目指す生徒像」をわかりやすく説明している。 +6.3 (67.4%→73.7%)
- ・学校は、保護者に「建学の精神」や「教育方針」をわかりやすく伝えている。 +5.8 (71.5%→77.3%)
- ・学校の部活動は活発に行われている。 +5.7 (79.8%→85.5%)
- ・学校は、緊急時の対応を生徒に周知している。 +5.5 (78.6%→84.1%)

エ. 昨年度から5ポイント以上評価が低くなった項目

- ・学校は、資格、検定の取得に取り組んでいる。 -10.0 (88.0%→78.0%)

○ 教員（常勤） <資料③>

開校3年目となり、旧大和田中高と滝井高の教職員が完全に一体化し、それに加えて校長が交代したことで、様々な面で教職員の評価が大きく変化した。肯定的評価80%以上の項目が昨年度よりも4項目増えた一方で、50%未満の項目が大きく増えた。特に、校長のマネジメントに関する項目が大半を占めていることは重く受け止めなければならない。

表 3 肯定的評価（A+B）の割合別項目件数

(%)	100~90	~80	~70	~60	~50	~40	~30	~20	~10	項目総数
R6年度	8	14	5	7	2	7	2	0	0	45
R5年度	10	8	10	6	8	1	2	0	0	45
R4年度	9	11	11	6	6	4	3	0	0	50

ア. 評価A+Bが90%以上の「特に評価の高い」項目

- ・保健室を中心に、体調不良・ケガ等への対応はスムーズに行えている。 100.0%
- ・カウンセリング制度など、生徒支援の体制が整えられている。 100.0%
- ・海外研修など積極的に国際交流が行われている。 97.5%
- ・学校は、ホームページを利用して、積極的に情報を公開をしている。 95.1%
- ・授業などにおいて積極的にICT機器を活用している。 93.8%
- ・募集活動は適切に行われ、生徒募集は順調にしている。 91.4%
- ・学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。 90.1%
- ・生徒指導において、家庭との連携ができています。 90.1%

イ. 評価A+Bが50%未満の「評価の低い」項目

- ・理事会・評議員会での決定事項などが適切に報告されている。 30.9%
- ・教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。 34.6%
- ・予算、決算の収支の状況について適切に開示され、報告されている。 43.2%
- ・人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。 43.2%
- ・ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。 43.2%
- ・人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。 46.9%
- ・生徒に、清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。 46.9%
- ・初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。 48.1%
- ・教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。 49.4%

ウ. 昨年度から5ポイント以上評価が高くなった項目

・部活動は活発だ。	+13.3 (75.6%→88.9%)
・学校は、地域や地域住民との交流ができている。	+12.3 (38.3%→50.6%)
・募集活動は適切に行われ、生徒募集は順調にしている。	+12.1 (79.3%→91.4%)
・効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。	+9.4 (58.5%→67.9%)
・生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	+8.2 (58.5%→66.7%)
・危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。	+8.1 (56.1%→64.2%)
・挨拶をすることや時間をまもる指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。	+7.2 (76.8%→84.0%)
・生徒は、学校に誇りを持っている。	+7.0 (73.2%→80.2%)
・併設大学・短大との連携体制が整い、指導が行われている。	+5.8 (68.3%→74.1%)

エ. 昨年度から5ポイント以上評価が低くなった項目

・理事会・評議員会での決定事項などが適切に報告されている。	-37.4 (68.3%→30.9%)
・予算、決算の収支の状況について適切に開示され、報告されている。	-30.0 (73.2%→43.2%)
・ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。	-15.3 (58.5%→43.2%)
・生徒に応じたきめ細かな教育を実施している。	-12.4 (92.6%→80.2%)
・人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。	-12.4 (59.3%→46.9%)
・教職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している。	-11.6 (61.0%→49.4%)
・学校の生徒指導方針に基づいた指導が行われている。	-7.8 (72.0%→64.2%)
・生徒の情報活用能力の育成を図っている。	-7.6 (82.9%→75.3%)
・教職員は、「目指す生徒像」を理解して、指導に取り組んでいる。	-7.5 (91.5%→84.0%)
・生徒に、清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。	-6.8 (53.7%→46.9%)
・人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する体制がある。	-6.2 (49.4%→43.2%)

学校関係者評価委員会からの意見

○ 学校関係者評価委員会

<委員>

中村昌子 (大阪国際大学特任教授)
佐藤裕宣 (守口市立樟風中学校長)
松田正也 (大阪市立董中学校長)
宮崎浩太郎 (寝屋川市立第一中学校長)
菊田紗基子 (本校 PTA 会長)
岩本和也 (三窓会・大阪国際大和田高等学校同窓会会長)
江戸達男 (高瀬町自治会長)

<学校関係者>

校長 清水隆、副校長・高校教頭 黒川泰宏、中学教頭 杉井紀夫、総合企画室長 岸孝司、事務長代理 川西薫世、
主幹教諭・高3学年主任 蔵口勇雄、教務主任 伊藤翼、生徒サポート主任 玉木壽成

○ 校長からの今年度の取組に対する見解

1. 「質の高い学びとバランスの取れた人間形成」の実践

・「学校の教育方針を理解している」「学校の目指す生徒像を理解している」学校では特色のある教育活動が行われている」は高校よりも中学の方が生徒・保護者ともに評価が高い傾向で、本校の目指す方向性が着実に浸透してきている。

・「学校の授業は総じて分かりやすい」「学校は分からなかった時の補習、質問指導に熱心である」などの授業・学力向上への取り組みに関する質問は、生徒・保護者とも肯定的評価が約 80%。しかし、「学校の授業で着実に学力が向上している」は、生徒の肯定的評価が中学 80%、高校 74%と昨年度よりもそれぞれ 5 ポイント上がっているのに対して保護者は中学 59%、高校 64%と昨年度とほぼ変わらない状況で、結果が想定や期待している水準に達していないとの思いが見て取れる。

・総合評価としての「大阪国際中学校高等学校に入学してよかった」は、中学が生徒保護者ともに 90%、高校が生徒 79%、保護者 87%と昨年が肯定的評価。学校改革の面では、保護者の「校長は積極的に学校改革に取り組んでいる」で 70%と昨年度よりも 10 ポイント下がっているのが残念であるが今後の参考にしたい。生徒の「学校がよりよく変わっているように感じる」では、中学生 74%、高校生が 57%と昨年よりもやや改善されているものの、まだまだ課題があるように感じる。これは、期待の大ききの表れだととらえ、より満足度が上がるよう取り組んでいきたい。

2. 進路指導

・進路指導に対しては、肯定的評価が生徒・教員とも約 80%となっており、高評価。中学では「自分の将来についての生き方について考えさせる」が生徒・保護者とも 80%を超える高評価。

・進路実績として、国公立大学の総合型選抜での合格者が年々増加。今年度は 23 名と昨年よりも 5 名増。一般入試では 3 月 20 日までの報告では 61 名となっておりほぼ目標を達成できる見通し。中でも東京大学、国際教養大学、大阪公立大学医学部といった近年実績のない難関校の合格が出たのが特徴。関関同立もほぼ昨年並みで 261 名（延べ数）となっている。

3. 生徒指導・人権教育

・生徒指導や人権教育に関する質問項目に対する評価は、生徒・保護者ともに 80%以上で高評価となっているが、教員は指導体制で約 60%と低い数値となっており、今後の課題である。

・生徒相談体制に対する評価は、生徒・保護者・教員とも 85%を超える高い評価で、日常的に生徒とかかわる教員集団や保健室と支援室及びスクールカウンセラーとの連携など、きめ細かい相談体制が評価されているものと思われる。

・一方で、転・退学者が増えている。もともと小中学校から不登校傾向の生徒が、中学・高校へ進学しており、入学当初はなんとか登校をしても夏休み以降から欠席がちになる生徒が増える傾向がある。特に、高校では欠席日数が規定を超える時期を迎えて原級留置の可能性が高まると、通信制高校への転学をあまり躊躇なく決めてしまうのが最近の傾向である。専門医などの診断があれば保健室登校を認めるなどの配慮をしているが、それだけでは対応しきれない事例がある。

4. グローバル人材の育成

・国際交流や異文化理解に関する取組みも、中学修学旅行が 5 年ぶりに海外実施できたのをはじめ、予定されていた海外研修を含めすべて実施できる状態となった。また、従来からのオーストラリアの提携校や AFS の交換留学生に加え、一日だけではあるが中国・台湾・カナダからの訪問団などの受け入れが増え、校内での国際交流の機会を多く設けることができた。

・上記のような取り組みの結果、国際交流に関する肯定的評価は生徒・保護者・教員とも 95%超と非常に高く本校の大きな特色としての認識が定着している。

・新校になり、英語教育への関心が高い生徒の入学が増え、それに合わせて、実用英語資格試験の一つである GTEC の結果が年々伸びてきている。全国平均の 1 年間の伸び率のほぼ倍近い伸び率を示しており、本校の昨年度と比較しても高 3 で約 50 点平均が上昇し、それに伴って高得点者も著しく増加している。この結果が大学入試においても有利に働いているものと考えられる。

5. 人材開発

・教員相互の授業研究に対しては、年 2 回の授業見学期間の設定や外部講師を招いての研究授業・講演会実施なども奏功し、年々改善して 74%まで肯定的評価が増えた。

・しかし、初任者の指導を含め研修全般に対する教員の評価は絶対値としては未だ 40%~60%と低水準。次年度もよりその内容充実を図っていきたい。

6. 組織改革

・募集広報が順調に行われ募集定員の確保が実現したことは評価できる。働き方改革に関しては、校内の ICT 化が進む一方で、各種会議の効率化や教職員間の連携協力体制に課題があり、今後も引き続き改善に向けて取り組む必要がある。

○ 評価委員からのご意見（委員会欠席者には書面にてご意見を集約した）

<総論>

- ・コース別に集計をすることで、コースによつての課題が見えてくる。
- ・どの項目も高評価である。特に中学は一般的に厳しい評価になるが高評価がでている。
- ・生徒より保護者の意見は厳しくなるのは仕方がない。
- ・全体に評価が高い。特に学校満足度の評価が高いのがすばらしい。
- ・昨年水準の高かった項目についてはほぼ同水準を継続しており、今後も継続していただきたい。昔と異なり、他校や外国の学校の情報も容易に手に入る時代になっているので、生徒も学校の環境や取り組みに敏感になっていると思われる。生徒が学習に集中できるような環境づくりをするため、学校幹部や中堅の教員には積極的に外部の情報に触れていただき、国際高校の改善に取り組んでいただきたい。ただ、教員の項目（6）組織改革については例年評価が低い項目があり、学びの質の向上のためにも後回しにすることなく改善をお願いしたい。

(1) 質の高い学びとバランスの取れた人間育成の実践

- ・授業について 授業がわかりやすいの肯定的回答が中学 88.9%、高校 79.5%と高い数値を示している。これは先生方が丁寧に準備をされ授業に臨んでいただいている賜物であると推察する。また、校内研修も充実されているようで、更なる先生方のご努力に期待する。
- ・また、「わからなかった時の補習・質問指導に熱心である」の肯定評価が中 80.1%、高 84.7%という数値からもわかるように先生方の努力に頭が下がる思いである。
- ・「文化行事は充実している」の肯定評価も中 95.8%高 85.3%と高くなっている。子供たちの精神面、社会面の発達、言い換えれば人間形成に積極的であると考える。ここでも先生方の努力を評価したい。
- ・文化的な行事の評価が高い。先生方は苦勞されていると思うが、よく生徒たちに意図が伝わっているのでは。
- ・部活動への加入率が上がっているということなので、ますます活気のある学校になると期待する。
- ・ICT 機器について昨年度よりも評価が高くなっているが、教員の授業での活用をどのように定着させているか。
- ・高校生に入学してよかったと思っている割合が相対的に低いが、大学生や社会人になってから考えたときに変わってくるものでもあると思うが、OB 等の意見を聞く場を設けることで自己肯定感を上げさせるのも良いかもしれない。すでに何回か実践されていることは伺っているものの、三窓会としても積極的に継続していただきたい。また、ICT 機器に関する評価が高校で著しく伸びており、どのようなことが要因で伸びたのか伺いたい。

(2) 進路指導

- ・偏差値の高い大学に入ることは目的ではないものの、高校としてのブランド向上のためにはコミットしていただきたい内容。生徒の将来につながる大学や学部を意識した学習ができるようサポートしていただき、大学の名前はそれについてくるものとなってくれることを期待する。
- ・大学進学率も良くなってきているようで、安心材料である。今後、国際バカロレアにふさわしい海外大学への進学も期待する。

(3) 生徒指導

- ・生徒たちの、「先生は、自分たちのことを理解し、困ったとき相談してくれたり、手助けしたりしてくれる」の項目が高評価なことから、教員や大人への信頼感が高いことがうかがえる。
- ・高校の転退学者の数が気になる。国際高校になってから 1 学年の人数がかなり増え、細部までのケアが難しいことは承知しているものの、周りの生徒に与える影響も少なからずあると思われるので、できるだけ少なくなるようお願いしたい。
- ・学校体制や生徒指導においては、二校が合併したところなので、学年やコースによって統一できるところとそれぞれで進めるところがあってやむなしと考える。しかしそろそろ、学校として方向性を打ち出し統一された方向に進むべきであると思う。教員間での議論を大切にしていきたい。
- ・生徒指導面について、生徒と教員側の感覚のずれが生じているが、その要因は何か。

(4) グローバル人材の育成

- ・GTEC の成績が著しく伸びている。今後英語を使えることは社会人になってからも選択肢の幅を広げるのに有効であるため、さらなるレベルアップを期待している。生徒が英語に興味を持てるような取り組みも進めていただきたい。

(5) 人材開発

- ・新規採用教員及び若手教員の育成の肯定的評価が低い状態が継続している。

(6) 組織改革

- ・各種会議の時間短縮や業務の効率化がかなり評価を落としている。教員のワークエンゲージメントは教育そのものに直結すると思われるので、短期的な解決が必要であると考えられる。
- ・ホームページを覗かせてもらったが、素晴らしい出来栄であり、感動すら覚えた。ICT が発達している今日、子どもたちも学校を調べるのに第一歩はホームページなどの媒体である。凄く魅力的で、是非、この学校に進学したいと思わせる宣伝材料であると思う。クオリティーを下げずに進めていただきたい。楽しみにしている。
- ・働き方改革や働き甲斐の向上など課題は山積であると感じるが、貴校は子ども教職員とも前向きでますます発展していくであろうと前向きな空気を感じる。無理せず無駄なく益々の発展を期待する。
- ・ブレンドでの連絡がありがたい。紙ではないので保護者への連絡が確実に届くようになった。また、欠席連絡等も、電話で行う煩わしさがなくなり、便利になった。
- ・PTA と取り組みとしては、積極的に活動できており、高評価を得ている。学級委員の仕事について、気負うことなくできることをできる時に行ってもらえればいいという考えで PTA 活動を実施している事も功を奏している。
- ・私学保護連の執行委員をしていることもあり、他校の PTA との交流がある。そこで得た情報をもとに、本校でも取り入れたいことは学校と相談している。その中で、今年度は高校で性教育を実施することができた。
- ・公立中学校では、部活動の活動時間にかなり制約があるが、働き方改革の一環として、私学での部活動指導についてはどう進めているか。
- ・今年、国際高への受験者が多かった。割合的には、ほぼ、5 人に一人が受験している計算。広報戦略で、変えたことはあったのか。保護者への情報発信の仕方として参考にできることがあれば教えてほしい。
- ・生徒の姿勢がすごくいい。通学中など、制服の着こなしなど、乱れている生徒はほとんどいない。生徒一人一人が広告塔になっており、生徒の様子が募集につながっていると感じる。